

## 平成 30 年 11 月 22 日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。市長、よろしく願いいたします。

### 【市長】

はい、年末が近づくにつれて、だんだんせわしくなりますけども、この頃、知名度が出てきましたけども、11月22日は何の日でしょう。いい夫婦の日ですね。

そこで、ひとつ今日は、朗報を発表したいと思います。

静岡市の観光親善大使を務めてくれている森理世さんが、来月結婚することになりました。国際結婚であります。出会って数カ月って言ってたかな。ただ、すごく静岡にこだわりを持っているので、結婚披露宴はアメリカではなく、静岡市の久能山東照宮で挙げるそうであります。

旦那さんは、サンフランシスコに在住って言ってたかな。そんなことありますし、本当に、お祝いを申しあげたいなというふうに思います。

もう、若い記者さんは、森理世さんが、世界ミスユニバースでグランプリを獲ったということは2007年だから、ご存知ないかもしれませんが、大変な話題に、全国的な話題になりました。

日本ではないですからね、世界、ユニバースですのでね。知花くららさんは、前の年に準グランプリになったんですね。その翌年に優勝したということが大変話題になったんですけども。その後の森理世さんの生き方というのが、理世さんらしいんですけども、自分は「ふるさと静岡が大好きだ」と、母がダンススタジオを経営していると。本来ならば、そこまで上り詰めた方だから、東京の大手プロダクションと契約をして、もっともっと知名度を維持する、そういうお仕事の仕方もあると思うんですけど、そういう大企業を選ばずして、とにかく家業であるお母さんのダンススタジオを盛り上げるんだ、ということでミスユニバースの事務局の誘いを断って、契約を打ち切って、静岡に戻ってきてくれたというような経緯であります。

もう、あれから11年経っていますけども、静岡市は女性が活躍する都市環境を作っていくと。静岡市は、“女子きらっプロジェクト”、きらきら輝いている女性を応援する都市ですよ、というロールモデルにもなってくれていますし、SDGsの中でもジェンダーイコリティ、男女参画共同社会の実現ということが、17の目標の一つにありますから、そのSDGsの静岡市の取り組みにも、森理世さん、ぜひ協力してくれています。

今日、広報課長から、後ほど連絡があると思いますけども、環境局が海洋資源の保全、プラごみの削減という啓発の中で、来年の1月のSDGsウィーク、さかなクンをゲストに招いて、啓発イベントをやりますが、その方にも、森理世さんがぜひ協力をしてくださっているそうであります。

いずれにしても、きらきら女性が輝く静岡市ということは、私たちの大切な課題でありますので、今日はそんなことを基調にして、記者会見を進めたいと思います。

昨日ね、静岡女子高の創立 100 周年の式典があって、私も招かれて挨拶をしてきました。今、私立の高校が女子高を経営するのは、大変なんですね。なので、大成高校、昔は精華女学校だったわけですけども共学化したし、静岡城南高校、これも昔は静岡女子商業高等学校だったんですけども共学化した。公立も、清水西高にせよ、城北高にせよ、共学化したというような流れがあります。その中で私立でありながらも静岡女子高というのは、女子教育を貫いているんですね。

私、昨日式典に参加して、いいなと思ったのは、やはり、男子学生に頼れないから、生徒会も学園祭も全部女子の中でやらなきゃいけないわけですよ。その中で、リーダーが生まれるわけですよ、女子高の中で。部長が生まれるわけですよ。

だから、男性に頼らずしても、自分たちがやらなきゃならない、やらざるを得ないという経験を 10 代の時にしているというのは、これは大事なことなんだろうな、ということを昨日感じました。

なので、少し余分なことだったんだけど、とにかく、あなたたちが活躍する舞台を静岡市は用意しているよ。ぜひ、これから、女性が社会の最前線で活躍するような社会になっていこうから、目標を持って勉学に打ち込んでほしいというメッセージを出しまして、その中で、きらきら輝くトップモデルが集まる「東京ガールズコレクション」を、女子高のすぐ近くのツインメッセで、初めて SDGs の促進ということでやるよって言って、お手元のこのチラシを紹介をしました。

これも順調に進んでおります。いずれにしても、どうやって女性が輝く静岡市の実現ということの意識を高めていくかということは大事なことだろうなということを申し上げ、今日の話題、「静岡市、いんしず始めます！SDGsフォトコンテスト Inshizugram (いんしずぐらむ) の開始」について、話題を移します。何故こんな前置きをしたかという、これも静岡市役所の若手の女子職員が、今日皆さんに、今まで議論をして積み上げてきたことを発表をするからであります。若手プロジェクトチームの頑張りから生まれた事業であります。SDGs、なかなか全国的には認知度が上がりません。静岡でも 10% 以下という中、来年度この SDGs ウィークを集中的に開催することによって、市民の認知度 50% という高い目標を目指して頑張ろう、そういう流れの中で、来年 1 月 3 日の成人式から 12 日の東京ガールズコレクション in 静岡まで SDGs ウィークと称して、さまざまなイベントを用意しています。その詳細については、また改めて発表させていただきますが、今日は、その取り組みの 1 つが、これから発表する「SDGs フォトコンテスト Inshizugram」、略して「いんしず」であります。

簡単に申し上げますと、去年の流行語大賞にノミネートされた、「インスタ映え」、この頃は、「SNS 映え」というふうに言うことが多いようでもありますけども、ターゲットは若者の世代であります。この若者たちにどうやって SDGs を知ってもらおうか、取り組んでもらおうか、それを目的意識をもって、Instagram (インスタグラム) を使った写真コンテストを行うという事業であります。

それでは、準備はよろしいでしょうか。この取り組みを企画、立案、そして実行している若手女性職員プロジェクトチームの 4 人のメンバーから、説明をさせていただきます。念入りにリハーサルをしていたと伺っております。上手にお願いをいたします。

## 【司会】

それでは、プロジェクトチームの皆さん、まずは自己紹介をお願いいたします。

### 【プロジェクトチーム】

私たちは、SDGs推進 TGC SHIZUOKA 2019 by 東京ガールコレクションプロジェクトチーム SDGsウィーク部会のメンバーです。私は、下水道計画課の望月と申します。こども園課の上久保です。教育総務課の奥平です。駿河道路整備課の白鳥です。

### 【司会】

それでは、この4名の皆さんから、早速プレゼンの方をお願いいたします。

### 【プロジェクトチーム】

私たち、SDGsウィーク部会は、主に来年の1月3日の成人式から12日の東京ガールズコレクション2019までのSDGsウィーク期間に、SDGsの普及啓発を図るため、様々な事業を企画立案、実行していくグループです。

コンセプトは、「17色×わくわく×輝く＝私たちの彩る静岡の未来」です。

17色で表されるSDGsに、希望や期待を持ち、市民の皆さん一人ひとりが主体性をもって、世界に輝く静岡の未来につながっていく、という想いを胸に活動を行ってきました。

その中で、今回企画したのが、Instagramを利用した、SDGsフォトコンテスト「Inshizugram」略して「いんしず」です。この企画は、将来を担う若い世代の皆さんに、SDGsを知っていただく、取り組んでいただくことを目的としています。昨年の流行語大賞に選ばれた「インスタ映え」という言葉があるように、若い世代に絶大な影響力のあるInstagramを使用することで、10代、20代の若者をターゲットに、静岡市のSDGsをPRしていきます。写真とともにコメントを投稿できるInstagramを使うことで、SDGsを知らない人にも、綺麗、素敵といった視覚的情報から、「これは何の写真だろう」とSDGsに関心を持っていただけたと考えています。

Instagramでは、自分の投稿した写真・コメントが自分をフォローしてくれている人にも共有されます。今回は、静岡市の公式Instagramを介して写真を募集します。静岡市の公式Instagramには、今、2400人を超えるフォロワーがいます。最初にこの2400人に「Inshizugram」のことを知ってもらう。すると、その2400人のそれぞれのフォロワーが「Inshizugram」に触れることになります。さらに、そのそれぞれのフォロワー、つまりフォロワーからフォロワーへ「Inshizugram」が連鎖することで情報がどんどんと広がり、日本、ひいては世界に静岡市のSDGsが発信されていくことになります。

この企画を通し、多くの方にSDGsを身近に感じていただき、自分もSDGsの17の目標を達成するための一員であるという当事者意識を持っていただきたいと思います。

募集する作品のテーマは、『SDGs17の目標のために私はこんなことを実践します』です。例えば「映える」、「インスタ映え」する写真を撮っていただき、この景色を未来永劫残したい、SDGsをみんなにお知らせしたい、といった私にできるSDGs宣言をコメント欄に記入し投稿します。では、実際に作業しながら投稿方法についてご説明します。

応募の手順は三つのステップです。まずスマートフォンで Instagram のアプリをダウンロードします。次に、静岡市のアカウントをこのようにフォローします。最後にスマートフォンなどで撮影したインスタ映えする写真に、写真と連動した『私にできるSDGs宣言』をコメントとして記入します。同じく、コメント欄に「#いんしず」と「#SDGs」という2つのハッシュタグ(＃)を記入して投稿をします。これで応募は完了です。私たちは静岡市の公式 Instagram へのフォロー、コメント、そして2つのハッシュタグで応募作品かどうかを判断することができます。ハッシュタグは世界と静岡市を繋ぐキーワードです。例えば、自分がフォローしている人が“Inshizugram”に応募したとします。自分がフォローしている人が投稿した写真は、自動的に自分の Instagram に表示されます。その写真に目を魅かれて、写真を開くとそのコメント欄には「#SDGs」というハッシュタグがあります。「#SDGs って何だろう」とハッシュタグをポチッとクリックすると「#SDGs」がついた投稿写真の一覧を見ることができます。つまり、SDGsにすでに取り組んでいる人、SDGsに興味がある人と繋がることのできるのです。また、世界中に静岡市がSDGsに取り組んでいることを知ってもらえるきっかけにもなります。

募集期間は、本日から来年1月の6日、日曜日までです。コンテストの結果発表は1月12日、土曜日のTGC、当日にツインメッセ南館にて発表をします。

また、今回、静岡市の公式 Instagram をフォローすることを応募の条件としています。今の静岡市の公式 Instagram のフォロワー2400人から繋がる人、SDGsに興味がある人の中から静岡市の公式 Instagram をフォローする人が生まれることで、静岡市の魅力をより多くの皆さんに伝えることにも繋がります。情報を受け取った市民の皆さんには故郷、静岡市への愛着を、市外の方には静岡市に対する興味を持っていただけるものと考えています。

“Inshizugram”はとても簡単に応募できますので、多くの方に応募していただきたいと思っています。以上でプレゼンを終わります。

#### 【広報課長】

はい、ありがとうございました。市長、よろしくお願ひします。

#### 【市長】

はい、わかりました。“Inshizugram”というネーミング、彼女たちが考えたんですけど、いかがでしょうか。私はこの立場ですので称賛をしました。彼女たちも、これからPR活動頑張っていきますし、こういう女性職員、嬉しいなと思うのは、それぞれ本来業務の課があるんだけど、SDGsをやるぞという私の呼びかけに自主的に集まってきて、課外活動として、こういう取り組みをしてくれている。その女性職員が若手を中心に育ってきていると。だから、それを活躍する場へ、表へ立つ舞台、そんなことを私は提供しながら女性が活躍する、そんな静岡市をプロデュースしていきたいなと思ひますし、彼女たちプロモーション活動に関してありますが、大手のマスコミの新聞テレビの皆さんの協力が不可欠でありますので、ぜひオール静岡市でSDGsの普及に向けて取材方よろしくお願ひいたします。“Inshizugram”はもちろんのこと、こうやって頑張っている女性職員がいるということも、ぜひ伝えていただければ嬉しいなというふうにお願ひします。いずれにいたしましても、このフォトコンテスト

については、開始から半年でフォロワー数が 2400 人を超えた静岡市の Instagram をはじめ、広報紙など、市でも周知を図っていきます。現在、SDGsウィークに向けて、この4人をはじめ静岡市をSDGsのトップランナーにするんだという熱い思いを持って、多くの若手職員が取り組んでいます。SDGsウィークについては、改めてお知らせしますので、こちらの方もよろしく願いいたします。はい、以上です。よろしく願いいたします。

#### 【司会】

はい。記者の皆さまのお手元に名刺のような、(カードを)配付させていただきました。こちらも今のプロジェクトチームの皆さんの手作りですのでね、また、ご覧いただきたいと思います。

市長から、SDGsウィークのお話がありました。投げ込みという形で、今、お手元の方に配付させていただきました。(チラシを掲げて)この「海洋ごみ問題を知ろうを開催」、これもSDGsウィークの一つのイベントでございしますが、すでに募集を今日から始めますので、その辺の周知もまた合わせてお願いしたいと思います。

はい、それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問のある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名、お名前をお願いしたいと思います。

はい、SBS(静岡放送)さん、どうぞ。

#### 【静岡放送】

2点ですが、1つ目、今回、「いんしず」ですけども、どのくらいの応募を見込んでらっしゃるのかなというのを1つ。

それから、もう一点、改めて、これまでも伺っていますけど、SDGsを活かしたまちづくりへの市長の想いを、また改めて一言いただけますでしょうか。

#### 【市長】

静岡市のInstagram倍増計画でありますので、この「いんしず」の力を借りて、今、2,400 ですからね、4,800 くらい、いきたいなというふうに思っています。

それから、もう一つは…。

#### 【静岡放送】

改めて、これまでも伺っていますけども、SDGsをまちづくりに活かしていく市長の想いを一言お願いいたします。

#### 【市長】

そうですね。SDGsはビジネスチャンスです。これを中長期的に経済活動に、それぞれの事業所、企業の方々が取り入れていただいて、そして、例えばテレビの地方局なんか、これからビジネスモデルが変わっていて、キー局との関係も変わって行って、地上波オンリーではなかなか難しいと

いう経営の中で、SDGsにたいへん熱心な、あるいはそこで企業ブランドであるとか、企業活動をしていこうという企業からスポンサーしてもらったことによって、いろいろなコンテンツを供給していくと。お互いに静岡の事業所がSDGsを活かしてビジネスチャンスを高めると、こういうことができると私は確信しております。

紙ストローへの世界的なレベルでの移行というのも、その一つだと思いますね。そんなことでSDGsがボランティアでもチャリティーでもない、一つのビジネスチャンスなんだという意識を持っていき、そして、これは世界に貢献するまちづくりとして、あるいは世界に輝く静岡市の必要条件として、我々も、そのSDGsが目指す世界に協力をしていきたいと。そんなふうな想いで、それは、将来的にはビジネスという意味でも、安心安全な静岡市という意味でも市民に還元されてくる、そんなまちづくりに繋がっていくというふうに思っています。

**【司会】**

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

はい、それでは幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さん、お願いいたします。

**【幹事社】**

高校生年代への子ども医療費に関してなんですけど、昨日、静岡・浜松の両市長が拡大の意向を表明してから、初めての実務協議が行われました。しかし、浜松・静岡両市と県との主張には依然として大きな隔りがあり、県は政令市移行時の協定を根拠に補助金を出さない姿勢を示しています。今後も県が補助金を出さない姿勢を崩さなかった場合、市としては単独で実施する考えはあるのでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

**【市長】**

はい、まずもって昨日ね、県と浜松市さんと静岡市で協議が始まったことを一歩前進だなというふうに、心強く感じています。良かったなというふうに思います。これからは実務に協議を任せておりますので、見守っていきたいなと思います。

**【司会】**

よろしいですか。

**【市長】**

いずれにしても、先ほど紹介したように、昨日、静岡女子高の100年式典に行ってみて、校長先生に聞くと、焼津市から通っている子どももいるよ、富士市から通っている子どももいるよ、高校生ね。やっぱりユニバーサルサービスであるべきですので、静岡市もね、この高校生世代の医療費助成、何とかこれからも努力をしていきたいなというふうに思っています。

【司会】

それでは、その他、各社さんからご質問がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。SBS(静岡放送)さん、どうぞ。

【静岡放送】

昨日の協議の中で、県からは2分の1の補助っていうのはあり得ないし、恒常的に補助していくのもあり得ないと、かなりはっきりした声があったんですけども、それに関して、恒常的にあり得ないとなかなか財政的にも継続していくのは難しいと思うのですが、それをどうやって、県が強い意志を持っている中で、継続していこうとお考えでしょうか。

【市長】

まずは、実務に任せたいと思います。信頼関係を三者で少しずつ積み重ねていると期待をしておりますのでね。そういう中で何か合意点が見つければいいなど。先ほども申し上げましたとおり、私はそこを見守りたいなと思っています。ただ、市長としての方向性は、先ほど申したとおりね、高校生世代の医療費助成についても前向きに努力していきたいなと思っています。

【静岡放送】

信頼関係を築いていくと、恒常的な補助もあり得るとお考えですか。

【市長】

このことは、昨日の厳しい物言いですからね、予断は許さないと思います。実務に任せる、その一つの気持ちを今日はお伝えさせていただきます。

【司会】

どうでしょうか。NHK(日本放送協会)さん。

【日本放送協会】

それに関連してなんですけれども、県のほうからは「政令市ならではの課題」っていうのがもうちょっと見たかったな、聞いたかった、ということなんですけれども、聞いていてちょっとわからなかったので、「政令市ならではの課題」って何だと思っています。

【市長】

何でしょうね。ただし、問題提起をいただいた以上はそのことについても、私どもがこれから議論をしていかなければいけないというふうに思っております。

【日本放送協会】

他の市町さんと比べても圧倒的に人口が多いのは政令市だと思うのですが、そういったとこ

ろがやはり課題になったりするのでしょうか。対象とする人が多かったりとか。それとは別に何かあるんでしょうか。

【市長】

それも一つの要件でしょうね。しかし、昨日少し議論をしましたけれども、他にも議論の切り口はあるんだらうなというふうに思います。大義ですよ、大義をどう作っていくかということですよ。

【司会】

よろしいでしょうか。中日(新聞)さん、どうぞ。

【中日新聞】

一部報道で出馬の意向、表明したと報道がありましたけれども、今、ここで何かお話することはありますか。

【市長】

高校生世代の医療費の質問が何かあるのかなって思ったんだけど。

それについてはね、私は次の議会で通告もあるようですのでね。そんな中でどんなふうに自分の思いの一端を伝えていくか、今、試案中です。

【中日新聞】

ありがとうございます。

【市長】

何にも答えてないよ、だから。申し訳ないけれど。

【司会】

静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

子ども医療費の方に戻ってしまいますけど、市長は2月16日の定例記者会見で、基礎自治体が単位であると。従って、不公平とか不平等、そういうレベルの話ではないとおっしゃっています。ところが、ここにきまして、県から補助金をもらうということを・・・これ、整合性がとれますか。

【市長】

おっしゃるとおりだと思いますね。やっぱり事態は刻々と変わっている。私の思いは、どういうユニバーサルサービスをしていくべきかという問題意識はあります。しかし、合意点を見つけるという努力も



必要ですのでね、私はそのことを見守っていくということについて、ぜひご理解をいただきたいというふうに思います。

**【静岡朝日テレビ】**

その時にですね、お金の話、財政が厳しくなると、一つの事に集中すれば、というお話もありました。これを単独でやるとしたら、例えば3次総の計画を少しでも見直して、そちらから予算を捻出するというようなことは考えられますか。

**【市長】**

それは、この協議の次の話でありますので、今はこの協議に浜松市さんとの連携というものを第一に大切にしながら、誠心誠意、県とも実務で協議を進めてもらっているということに期待をしたいと思います。なんていうかな、私の思いはいろいろあれども、しかし、これは相手もあることですので、先ほど質問をされたように、県さんの方がこだわっている石川知事との基本協定を乗り越えるくらいの大義が、私たち、どれだけ3者間で合意できるのかと。ここを一つの論点としてその推移を見守っていきたいと思っています。

**【司会】**

よろしいですか。どうも、ありがとうございました。それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回、12月14日金曜日の午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。